

WilComm

WilComm/400 Ver. 8.03 & WilComm 4.8

Training Manual Lesson-4

PCサーバー 設定の基礎

Manual No - TRN054 (Last Update 2012/06/18)

WilComm V8.03 & 4.8

© Copyright 2012



本解説書は、ウィルコム「WilComm/400 Ver8.03 & PC WilComm4.8」を初めてお使いになるシステム管理者向けトレーニング・マニュアルです。

Lesson-4 では、PC サーバー におけるウィルコムの配信定義の設定方法について解説しています。

本解説書では、ウィルコムのオーバーレイ・フォームを使用しますが、フォームそのものの作成手順については述べられていません。以降の解説はオーバーレイ・フォームが作成済みであること及び、スプールデータのフォームへのマッピング定義も作成済みであることを前提にしています。

なお、オーバーレイ・フォームの作成手順につきましては、マニュアル「ウィルフォームス Forms Designer Tutorial」、マッピング定義の作成手順につきましては、マニュアル「ウィルフォームス Field Mapper Tutorial」を使用して、個人学習してください。

(目的)

1. Distribution Wizard の操作を理解する。
2. 配信定義(セクション)の構造を理解する。
3. スプールファイルの属性やスプールデータを使用した配信条件設定ができるようになる。
4. 配信方法・宛先・使用するオーバーレイフォームの設定ができるようになる。
5. 配信テストを行い、動作確認ができるようになる。

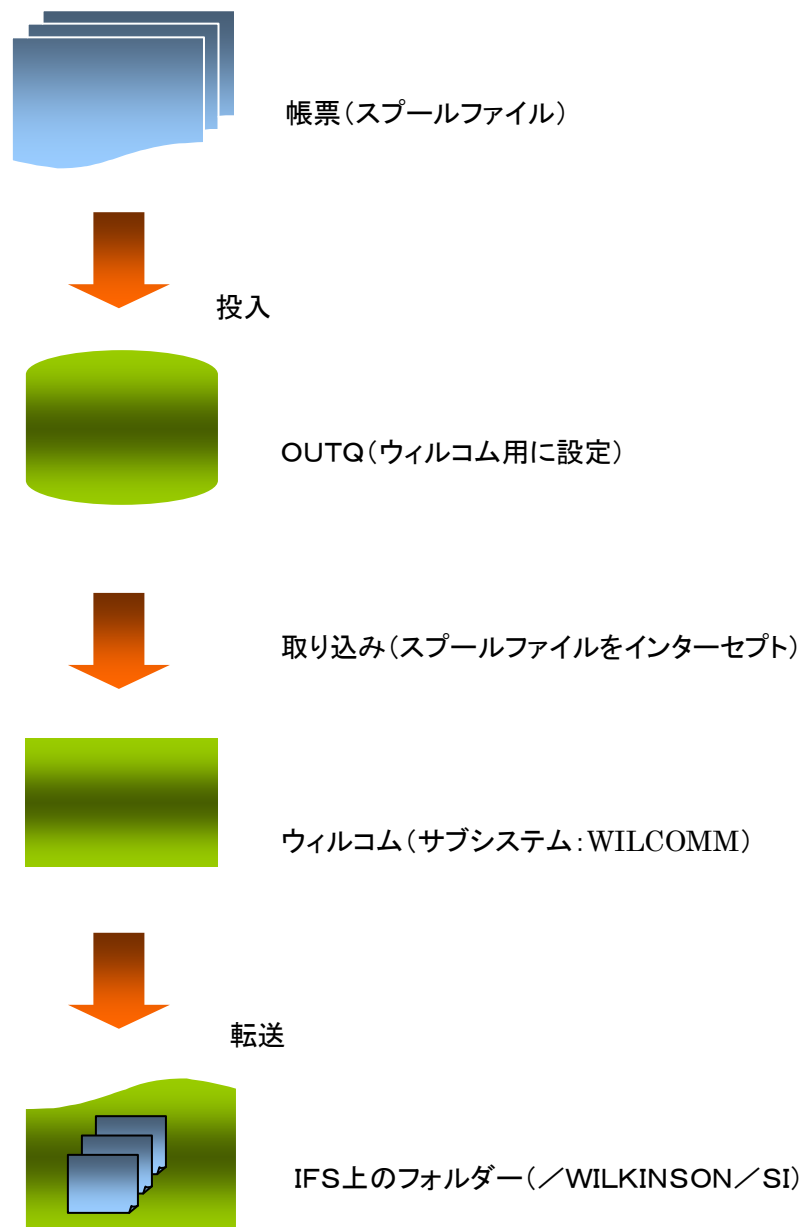
(目次)

1. ウィルコムの処理概要(復習).....	3
2. PC サーバー内ファイル関連図.....	5
3. PC サーバー側の作業手順概説.....	6
4. 配信計画を立てる.....	8
5. 配信定義作成(Distribution Wizard).....	11
6. アドレスの決定方法.....	39

[1. ウィルコム処理概要]

ウィルコムは、ホストで作成された帳票を配信するためのシステムです。配信方法として、PC プリンター印刷、E-mail、FAX、ファイル保管を選択することが可能です。

ホストでの送信処理

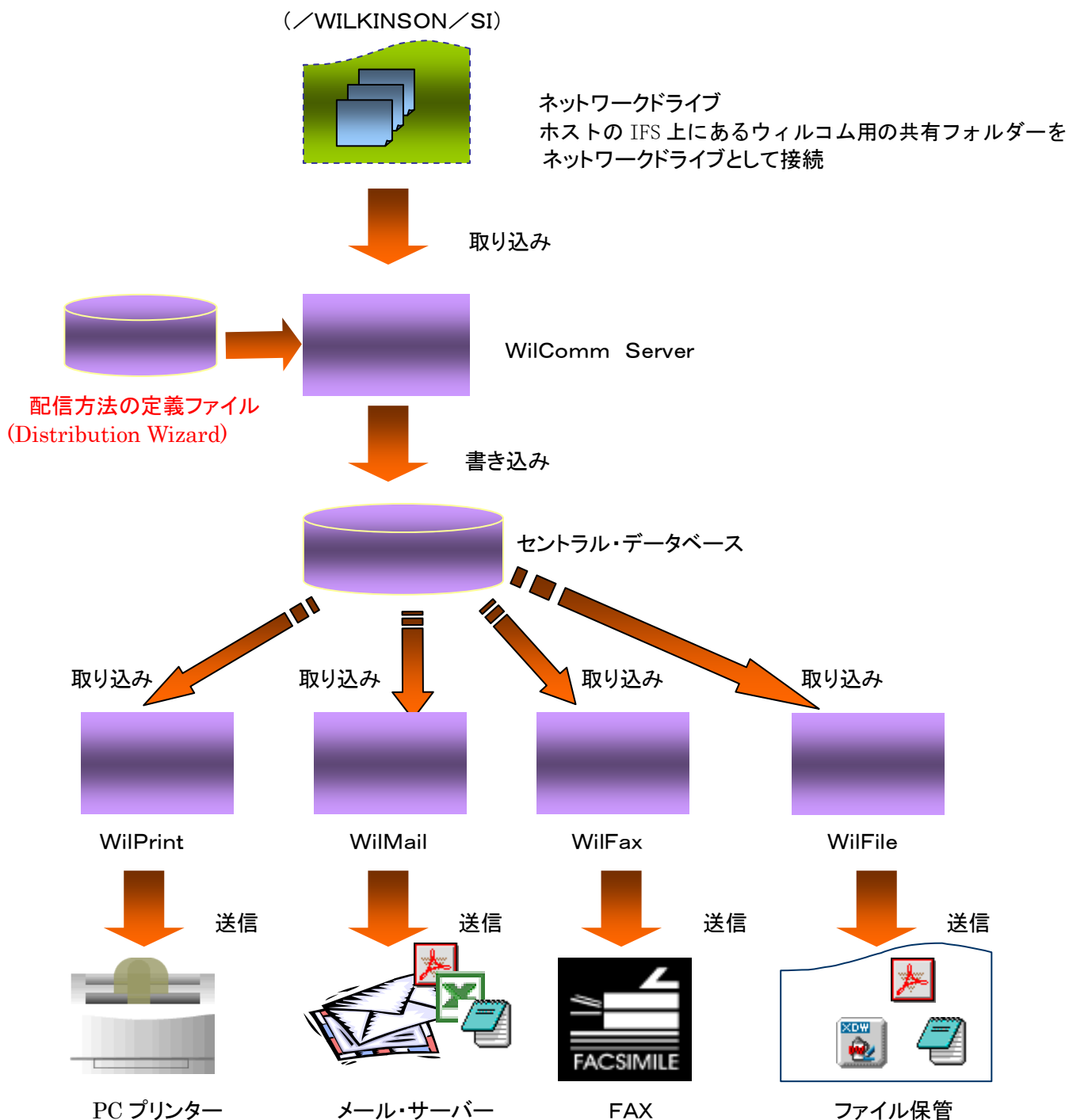


ウィルコムに監視対象として設定されたOUTQをサブシステム：WILCOMM が監視しています。OUTQにスプールファイルが投入されると、ウィルコムがスプールデータを取り込んでPCサーバーへ送るためのフォーマットに整形します。整形されたデータは、ホストの IFS 上にありますウィルコム用フォルダへコピーされ、この際に EBCDIC から ASCII へのコード変換が行われます。

Lesson-3 では、ここまでを学習しました。

Lesson-4 では、以下の流れについて学習します。

PC Server での送信処理



ホストの IFS 上のウィルコム用フォルダーが PC サーバー側でネットワークドライブとして割り当てられています。WilComm Server というプログラムが、常時このネットワークドライブを監視しています。ホスト側の処理でネットワークドライブにファイルが作成されると、これを PC サーバー側に取り込み、PC サーバー側に設定された配信方法を定義したファイルを検索し、条件が一致する定義があれば、これに基づいた配信処理手順がセントラル・データベースに書き込まれます。WilPrint、WilMail、WilFax、WilFile の各プログラムは、セントラル・データベースを常時監視していて新しいデータが追加されると、それを取り込んで処理を行います。

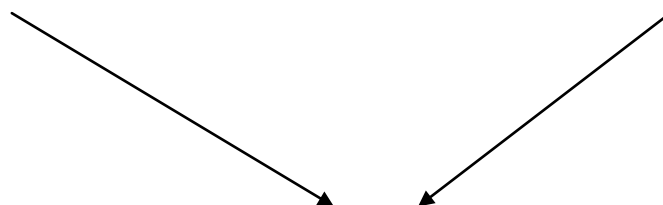
[2. PC サーバー内ファイル関連図]



Forms Designer (オーバーレイ・フォーム)



サンプル・スプール・ファイル(WILSPPOOL)



Field Mapper(マッピング定義)



Distribution Wizard(配信定義: セクション)

[3. PC サーバー側の作業手順概説]

ウィルコムを使用したスプールファイル配信を実現するためには、PC サーバー側で以下の順序で作業する必要があります。

- ① オーバーレイ・フォームを作成する。



Forms Designer を使用してオーバーレイ・フォームをデザインします。

マニュアル「ウィルフォームス Forms Designer Tutorial」を使用してフォーム作成をマスターしてください。

以下のフォルダに**拡張子 = 「f3t」及び「f3x」**のフォームファイルを作成します。

[32bit 版の Windows]

C:\Program Files\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\Forms

[64bit 版の Windows]

C:\Program Files (x86)\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\Forms

(ドライブ名はご使用の環境により異なる場合があります)

- ② サンプル・スプール・ファイルを PC サーバーに取り込みます。(ウィルスプール・ユーティリティ)

①で作成したオーバーレイ・フォームにマッピングを予定している ホスト上のスプールファイルをサンプルとして PC サーバーに取り込みます。

取り込み方法はマニュアル「サンプル・スプール・ファイルの作成」を参照してください。

以下のフォルダに**拡張子 = 「map」**のファイルを作成します。

[32bit 版の Windows]

C:\Program Files\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\Sample Spool Files

[64bit 版の Windows]

C:\Program Files (x86)\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\Sample Spool Files

(ドライブ名はご使用の環境により異なる場合があります)

- ③ マッピング定義を作成する。



Mield Mapper を使用して、スプールファイルデータをどのようにしてオーバーレイ・フォームにマッピングするか
の定義を作成します。

マニュアル「ウィルフォームス Field Mapper Tutorial」を使用してマッピング定義作成をマスターしてください。

①で作成したフォーム・ファイルと②で作成したサンプル・スプール・ファイルを使用して、**拡張子 = 「fmp」**の
ファイルを以下のフォルダに作成します。


[32bit 版の Windows]

C:\Program Files\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\FieldMap Files

[64bit 版の Windows]

C:\Program Files (x86)\Wilkinson\WilComm 4\WilForm\FieldMap Files

(ドライブ名はご使用の環境により異なる場合があります)

④ 配信定義を作成する。 

Distribution Wizard を使用して、配信定義を作成します。

①で作成したフォーム・ファイル、③で作成したマッピング・ファイルを配信定義(セクション)に指定します。

配信定義にはその他、配信方法(FAX / Mail / Print / File)、配信先宛先(アドレス)の決定方法が含まれます。

Lesson-4 では、④Distribution Wizard の定義(セクション)作成手順について解説します。

オーバーレイ・フォーム及び、マッピング定義は作成済みであることを前提としています。

①オーバーレイ・フォーム作成及び、③マッピング定義作成につきましては、各チュートリアル・マニュアルを使用して個人学習してください。

★ ①②③で作成するファイルは管理上、同一名称にすることをお勧めします。

[4. 配信計画を立てる]

ウィルコムは複数種類のスプールファイルを配信することができます。(請求書、注文書、社内帳票 etc.)

そのため、配信定義を作成する上では「これから作成する配信定義は、どのようなスプールファイルを配信するための定義」であるかを、明示的に区別しておく必要があります。

つまり、請求書の配信定義を作成するのか、注文書の配信定義を作成するのかといった、区別の方法を事前に計画しておく必要があるわけです。

また、その配信はどのような方法(FAX / Mail / Print / File)で何処へ配信するのか。配信するスプールファイルは、どのオーバーレイ・フォームを使用するのかといった情報も必要になってきます。

そこで、スプールファイルの配信定義を作成するためには、配信のための計画を立てる必要があります。

配信定義は、Distribution Wizard というツールを使用して作成します。

配信定義は「セクション」と呼ばれる単位で構成されます。「セクション」を構成する要素は以下の通りです。

① 条件-1 どのようなスプールファイルを処理するのか？

スプールファイル属性:スプールファイル名、用紙タイプ、ユーザーデータ etc.

② 条件-2 どのようなスプールデータを含んでいる場合に処理するのか？

スプールファイルの各ページに出力されている“ある印字データ”がどのような値か。

(例)スプールファイルの各ページの一行目一桁目の値=”M” の場合

③ どのような方法で配信するのか？

FAX or Mail or Print or File ?

④ 何処へ配信するのか？

FAX=電話番号、Mail=メールアドレス、Print=プリンター名、File=保管先パス

宛先アドレスは、どのような方法で決定するのか。

⑤ どのオーバーレイ・フォームを使用するか？

Forms Designer で作成した「どのフォーム」をオーバーレイに使用するのか？

ホストから PC 側へ渡される印刷データは、次ページのような形式となっております。

そのサンプルデータを参考に、配信計画を立てることにしましょう。

どのような計画を立てれば、確実にライブラリーリストのスプールファイル“**だけ**”を目的の宛先に対して配信する定義が作成できるかを考えてみましょう。


```

S0006055.AA1 - メモ帳
ファイル(E) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<<ADR1>>03-5821-6143 MSG04621 AA ORIGIN: <-3-
: <ADR2>=
: <DATA>
001 5722SS1 V5R3M0 040528 ライブラリー・リスト 6/08/01 15:23:22 s°~° 1
:
: [b# [メ- jb# ASP
: 装置 テキスト記述
:
: WILQ2962 SYS WILCOMM JAPANESE LANGUAGE SUPPORT V8.00+
: QSYS SYS フォント・ライブラリー
: QSYS2 SYS CPI のシステム・ライブラリー
: QHLP SYS
: QUSRSYS SYS System Library for Users
: WILCOMM PRD WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
: WILCOMM CUR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
: WILCOMM USR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
: WILCOMM USR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
: QGPL USR GENERAL PURPOSE LIBRARY
: QTEMP USR
:
: ***** リストの終わり *****
: <DATAEND>
: <ATTRIBUTES>
TRANSACTION=QPRTL 000001QPADEV0002QSECOFR 092885
OUTQ=WILCOMMCHG/TESTQ
OUTQLIB=WILCOMMCHG
OUTQNAME=FAK
RECORDLEN=132
PRIORITY=
FILE=QPRTL
FILENBR=000001
JOB=QPADEV0002
USER=QSECOFR
JOBNBR=092885
FORMTYPE=*STD
USRDTA=MSG04621
WCLUSRDTA=
SPFDATE=20060801
SPFTIME=152323
STATUS=*READY
FILEAVL=*FILEEND
HOLD=*NO
SAVE=*NO
TOTPAG=000000001
STRPAG=000000001
ENDPAG=000000001
TOTALPAGES=000000001 0000001 0000001
SIPOLLMBR=S0006055
SERVICECODE=WF
SPECIFICCODE=TT
LANGCODE=JPN
: <ATTRIBUTESEND>

```

赤枠部 は、監視対象OUTQ:WILCOMMCHG/TESTQ の作成時に指定したサブスクライバー:TESTに指定した宛先です。(ここでは FAX 番号:03-123-5678 を指定した例です。)<ADR1>

青枠部 は、スプールファイル本体です。<DATA>から<DATAEND>まで。

緑枠部 は、スプールファイルの属性項目です。赤線部は監視対象OUTQ:WILCOMMCHG/TESTQ の名称及び、その作成時に指定したスペシフィック・コードです。<ATTRIBUTES>から<ATTRIBUTESEND>まで

Distribution Wizard の「セクション」における要素を考えておきましょう。

① 条件-1 どのようなスプールファイルを処理するのか？

使用できるスプールファイル属性: **緑枠部**

ライブラリーリストのスプールファイルは、必ずスプールファイル名が「QPRTLIBL」です。

監視対象OUTQ: WILCOMMCHG/TESTQ で処理されたスプールファイルのスペシフィックコードは必ず「TT」です。赤下線部

② 条件-2 どのようなスプールデータを含んでいる場合に処理するのか？

①の条件指定だけで十分にライブラリーリストのスプールファイルを他のスプールファイルと区別することは可能かも知れません。

ここでは練習ですので、現実的ではありませんが以下の条件も追加してみることにしましょう。

前ページの図中の **黒枠部** には「WILCOMM」と印字されています。ここではスプールデータのこの部分に「WILCOMM」と印字されている場合に限って処理をするという条件設定することになります。

言い換えれば、この部分に「WILCOMM」と印字されていない場合のライブラリーリストのスプールファイルは配信させない設定ということになります。

③ どのような方法で配信するのか？

FAX or Mail or Print or File ?

④ 何処へ配信するのか？

FAX=電話番号、Mail=メールアドレス、Print=プリンター名、File=保管先パス

ライブラリーリストのスプールファイルには宛先が印字されていません。従ってスプールデータ内から宛先情報を読み取ることができません。**赤枠部** の監視対象OUTQにリンクしているサブスクライバーの宛先に配信することになります。

⑤ どのオーバーレイ・フォームを使用するか？

STD132 という名称のオーバーレイ・フォームがデフォルトで用意されています。

このフォームは、ホスト上で横 132 桁／縦66行のスプールファイルをそのままのイメージでA4出力するためのフォームです。

ライブラリーリストのスプールファイルは、横 132 桁／縦66行のスプールファイルですので、このフォームを使用することになります。

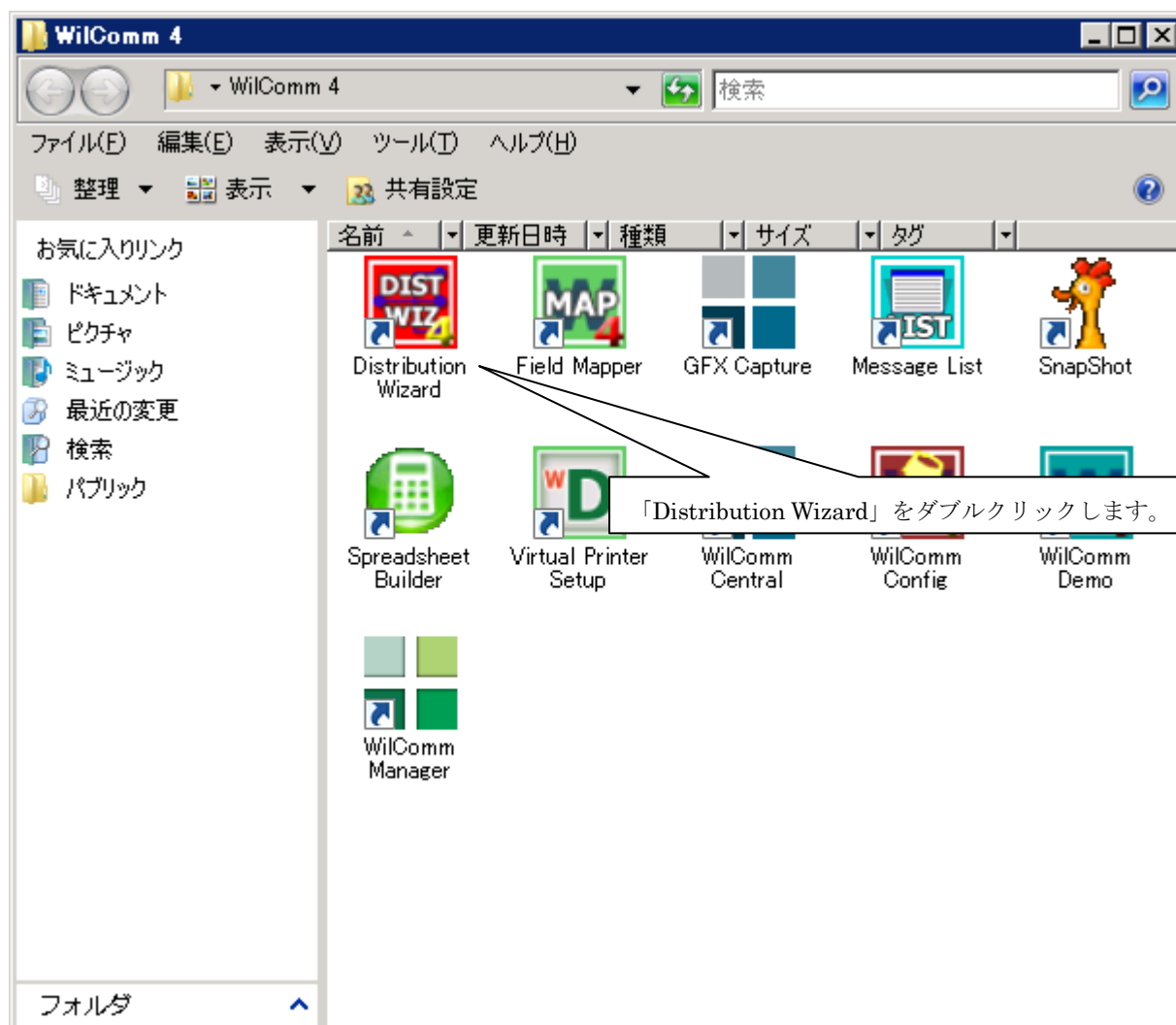
次のページからは、実際に Distribution Wizard にどのようにして設定していくかの手順を説明します。

[5. 配信定義作成 (Distribution Wizard)]

Distribution Wizard (ディストリビューション・ウィザード)

配信計画をもとに、実際に配信定義を作成します。

1. デスクトップ上のフォルダ「Wilcomm4」をダブルクリックすると、次の画面が表示されます。



2. 次の画面が表示されます。



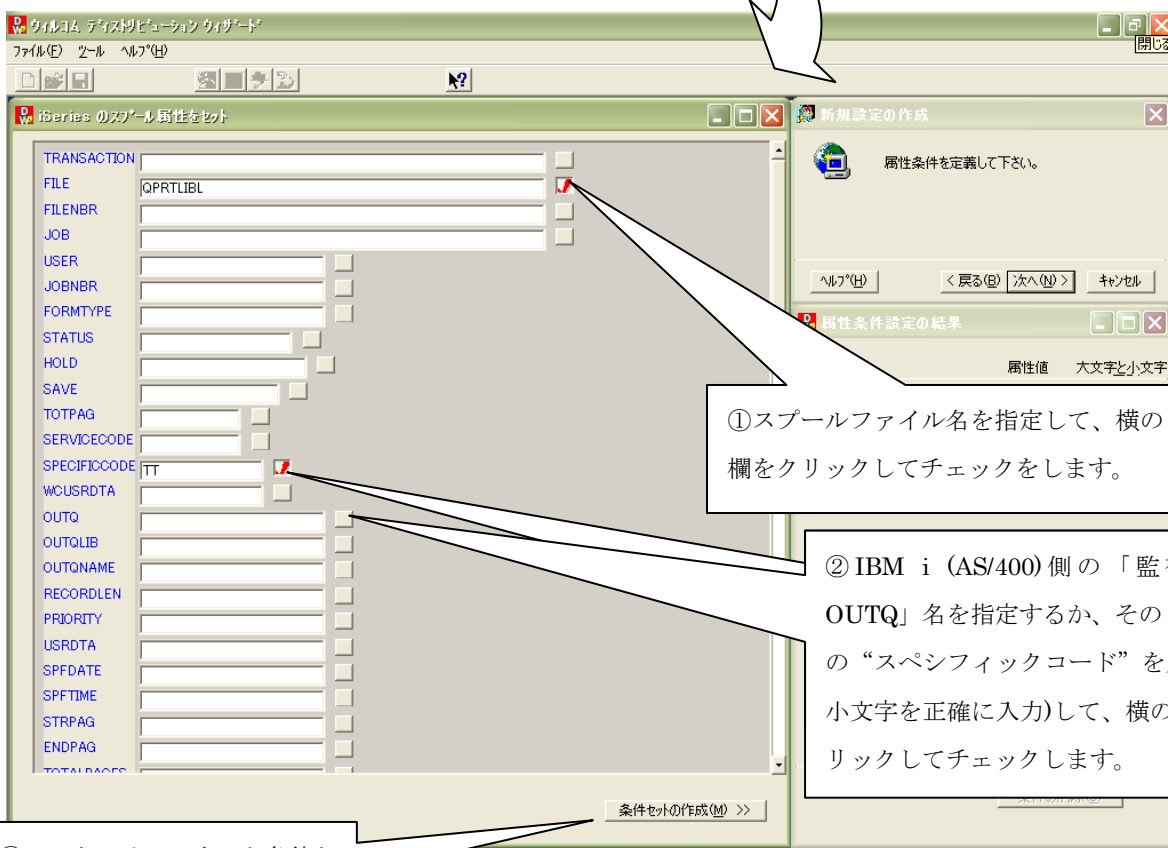
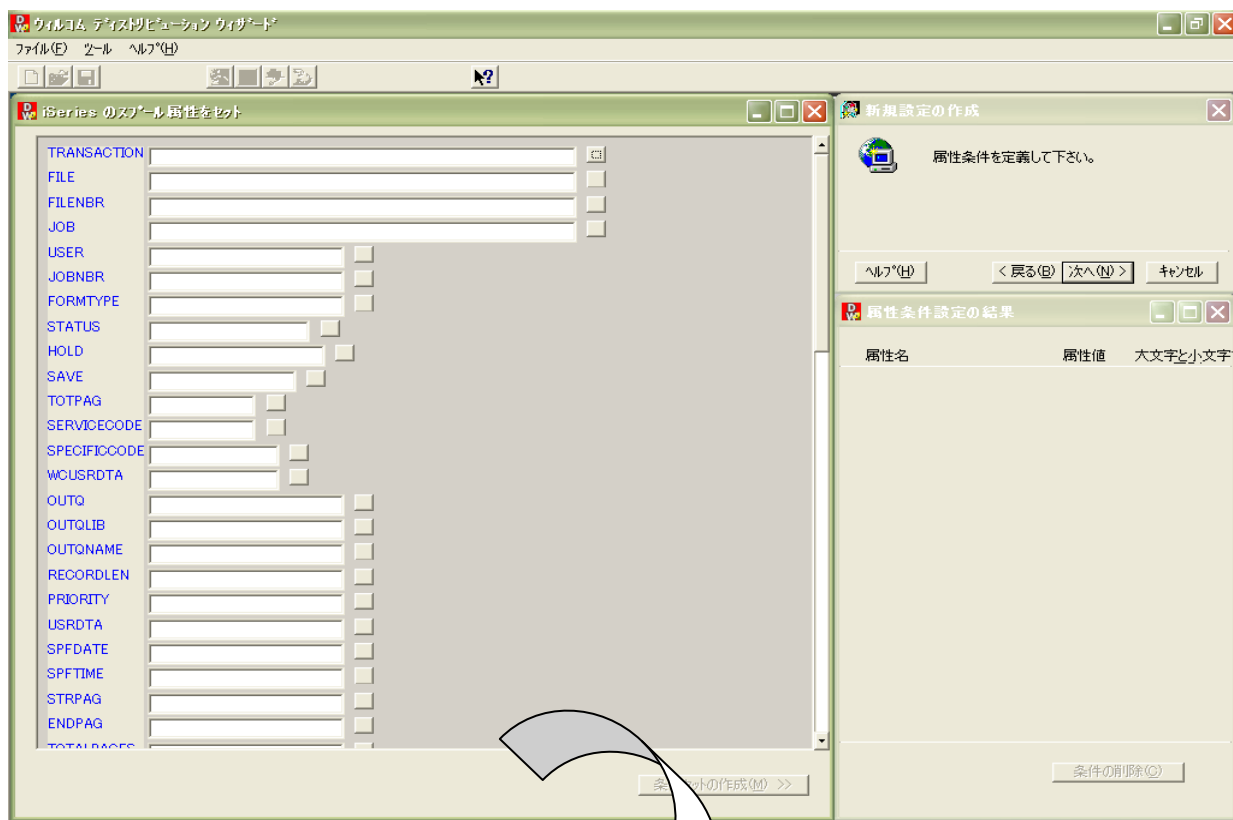
3. 次の画面が表示されたら、「次へ」をクリックして下さい。



4. 次の画面が表示されます。

スプールファイルの属性項目を使用した条件付けを行います。

配信計画の①で決定したスプールファイル名とスペシフィックコードで条件設定を行います。



①スプールファイル名を指定して、横の欄をクリックしてチェックをします。

② IBM i (AS/400) 側の「監視対象 OUTQ」名を指定するか、その OUTQ の“スペシフィックコード”を入力(大小文字を正確に入力)して、横の欄をクリックしてチェックします。

③ここをクリックすると条件として設定されます。



スプールファイル名が「QPRTLIBL」で且つ、監視対象OUTQ「WILCOMMCHG/TESTQ」を使用した場合に配信する条件設定ができました。

ここでは、And 条件が使用されていますが、Or 条件を使用することも可能です。

Or 条件にしたい場合は、①→③→②→③の順で設定を繰り返してください。

スプールファイルの属性での条件付けは、一般的に以下の項目がよく使用されます。

FILE：スプールファイル名

FORMTYPE：用紙タイプ

WCUSERDTA：ユーザーデータ

どのように条件付けしていくかによって、ホスト側アプリケーションを修正して、スプールファイルの属性項目にウィルコム用の識別IDを設定する必要があるかもしれません。

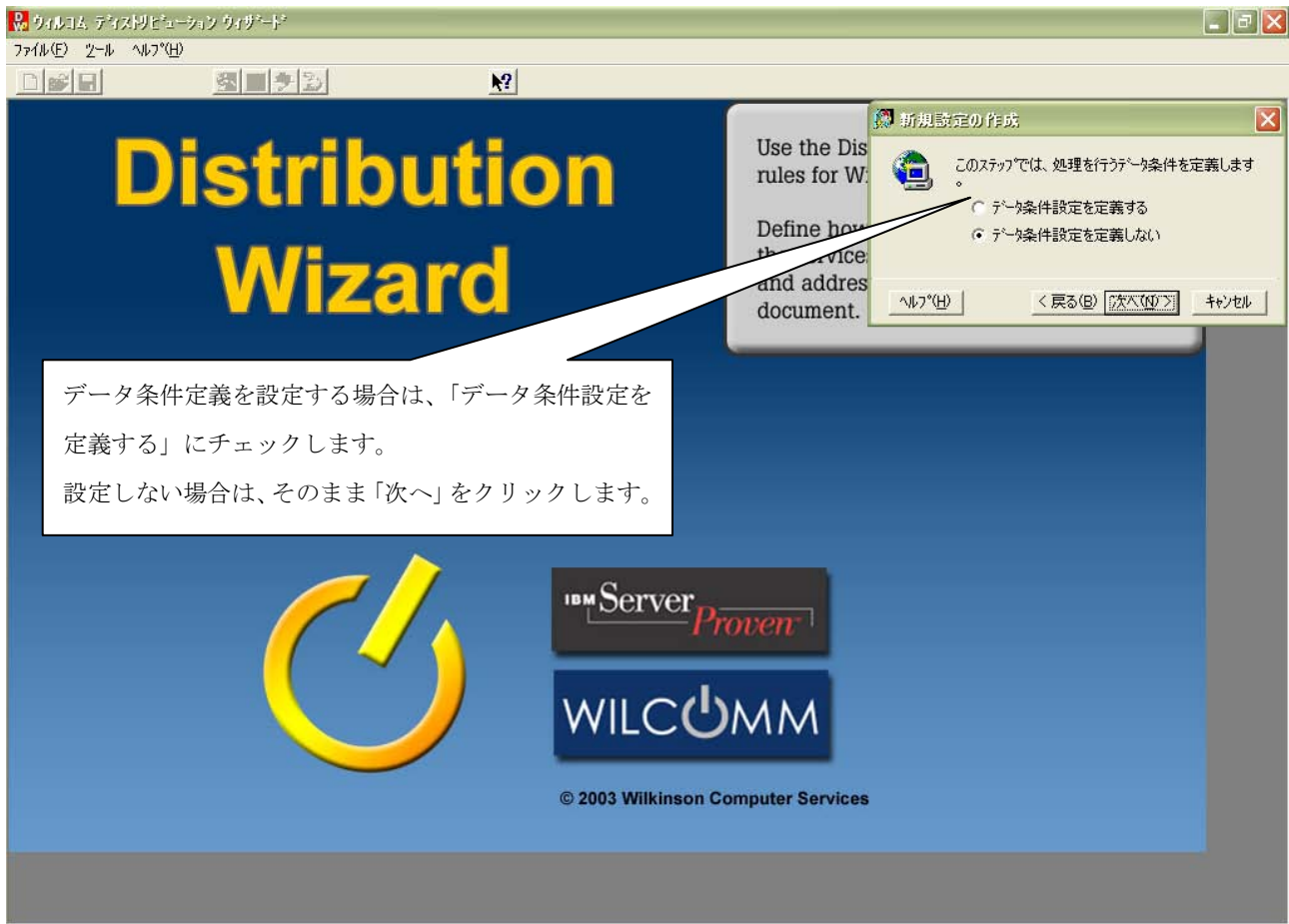
Distribution Wizard で配信定義を作成する場合、OUTQ 名或いは、SPECIFICCOSE：スペシフィックコードは必ず指定することをお勧めします。

IBM i (AS/400) 上の“**どの監視対象OUTQ**”で処理されたスプールファイルであるかを限定することができるからです。

請求書配信のための監視対象OUTQや、注文書配信のための監視対象OUTQなどといったように、スプールファイルの種類毎に監視対象OUTQを作成して運用することを考えた場合、誤った配信を行わないための“**コツ**”と言えます。

5. 次の画面では、実際のスプールデータの値によって条件付けを行います。

配信計画②で決定した「WILCOMM」という文字列がある場合に限って処理するように条件付けを行ってみましょう。



ここでの条件付けは、スプールファイルの属性項目だけでは条件付けが限定できない場合や、同じスプールデータ内でもページ毎に配信方法が違う場合に使用します。

例. 100ページの請求書(宛先100箇所)の自動配信

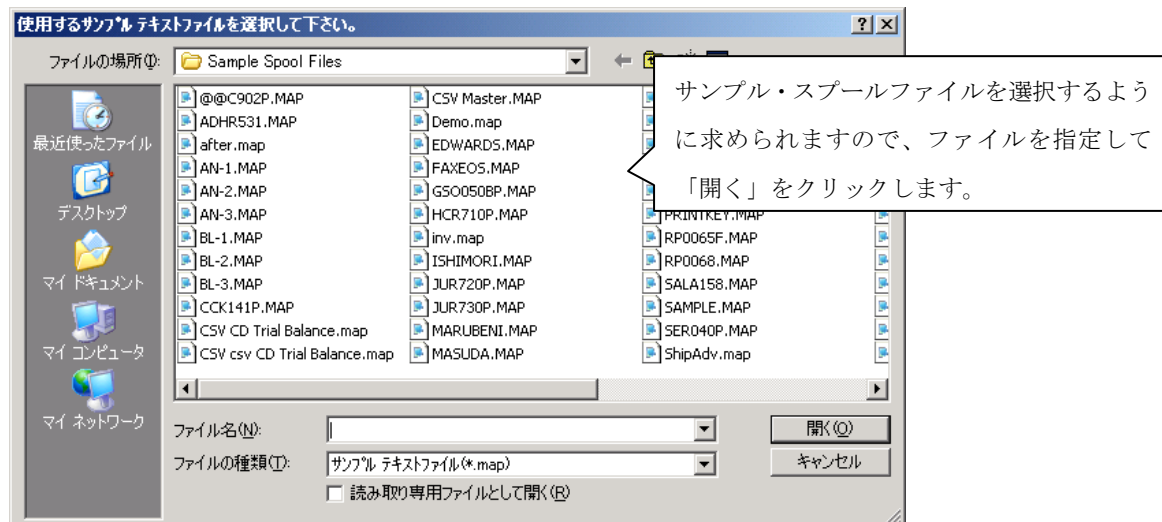
各取引先毎に FAX 配信する取引先と Mail 配信する取引先が混在している。

各ページに FAX 配信するのか、Mail 配信するのかを識別する文字列が印字されている場合。

スプールファイル属性は、スプールファイル単位にしか識別できない情報ですが、スプールデータを条件付けに使用すれば、スプールファイル内の各ページ単位の制御が可能になります。

場合によっては、既存アプリケーションを改訂してページ単位の制御を行うための識別IDを印字する必要がでてくるかも知れません。

(注) 上記画面で「データ条件設定を定義する」を選択すると以下の画面が表示されます。



ライブラリーリスト・スプールファイルのサンプル・スプールファイルは、この時点ではありませんので、この中から選択することはできません。

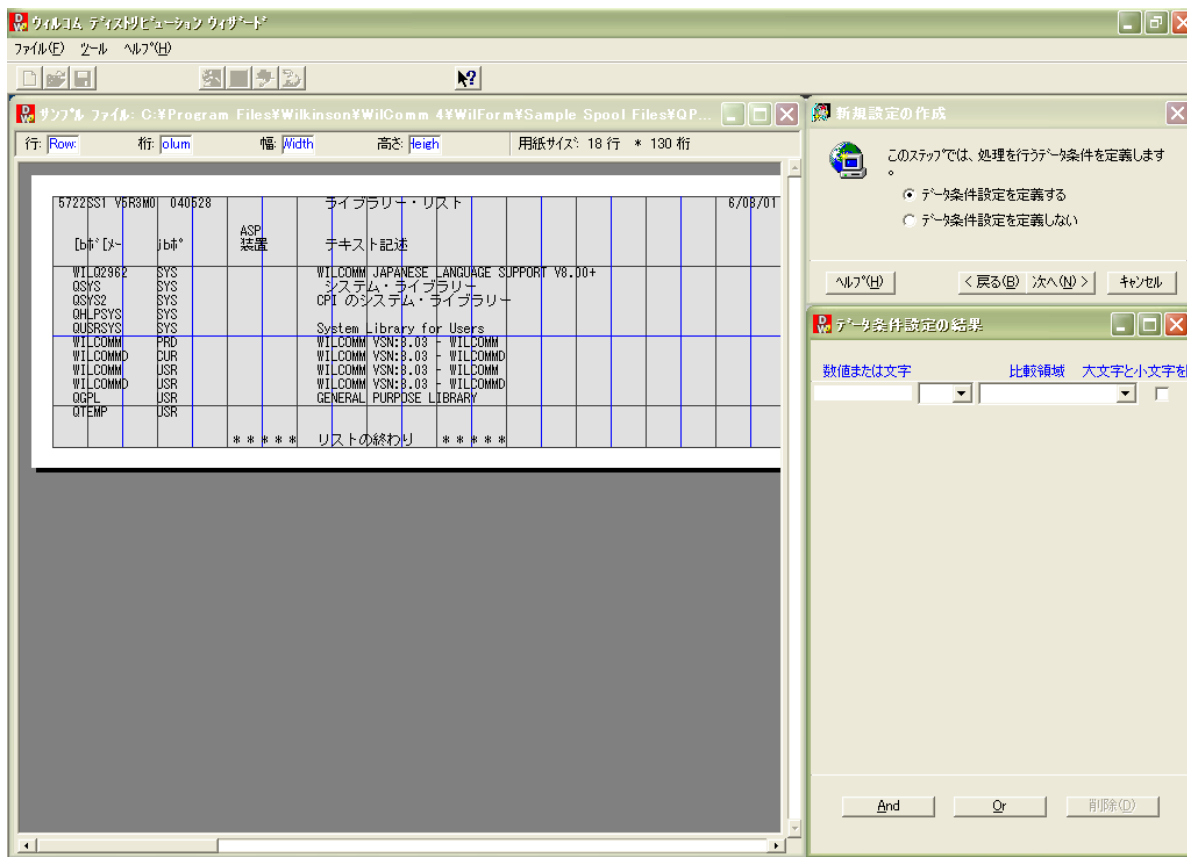
Distribution Wizard の設定は一旦ここで保留し、ホスト からライブラリーリスト・スプールファイルのサンプル・スプールファイルを PC サーバーに取り込むことにしましょう。

マニュアル「サンプル・スプールファイルの作成」AS0021 を参照して、ライブラリーリスト・スプールファイルのサンプル・スプールファイルを取り込んでください。

取り込む際、サンプル・スプールファイル名は「QPRTLIBL.」としましょう。

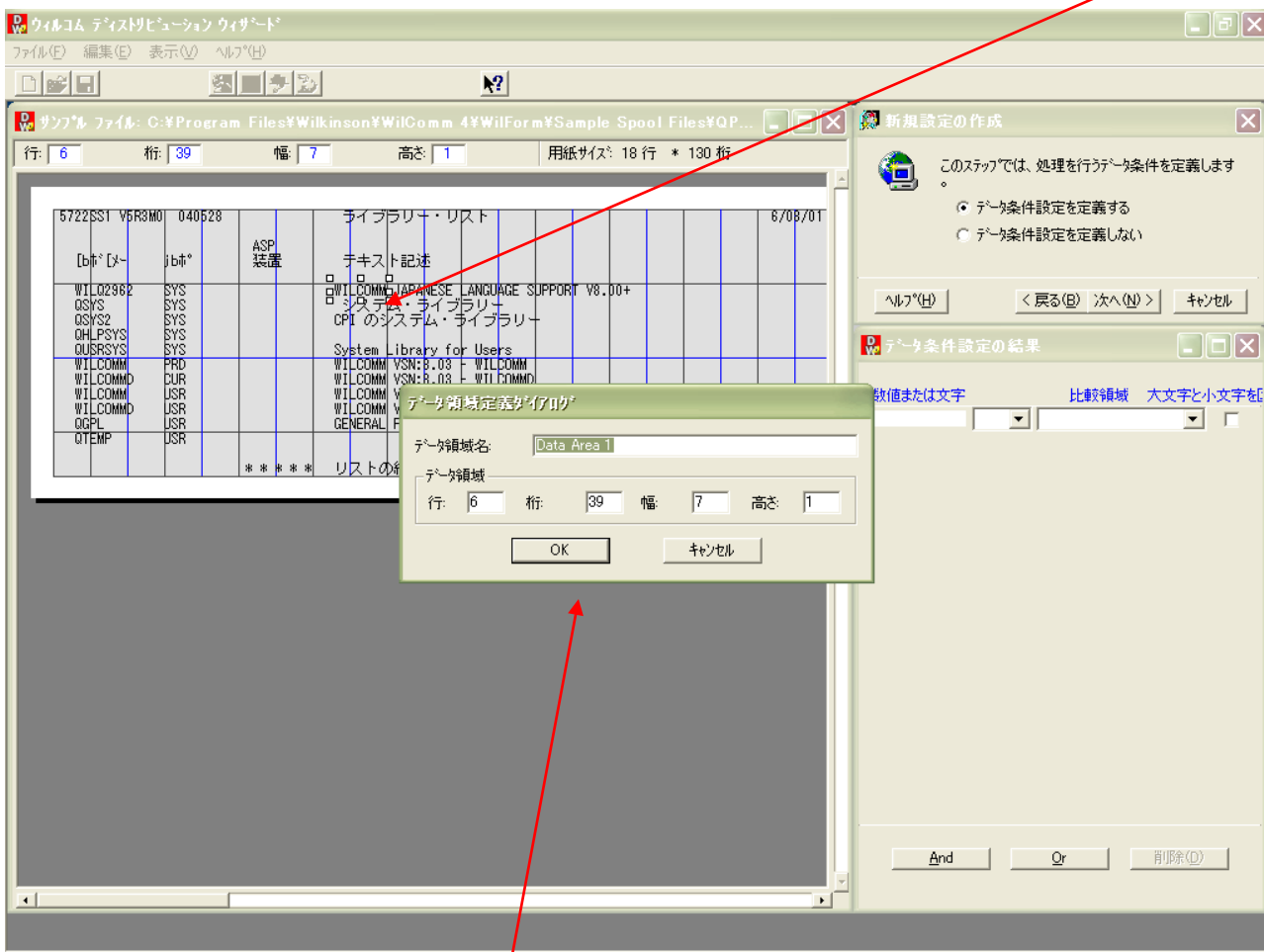
サンプル・スプールファイルの取り込みが終了しましたら、上記ウィンドウから取り込んだ「QPRTLIBL.map」を選択して「開く」をクリックします。

6. 「データ条件設定を定義する」画面が表示されます。



サンプル・スプールファイルを PC サーバーに取り込む目的は、このようにスプールイメージを表示するためです。

4. 配信計画の②で決定した「WILCOMM」という文字列が印字されている場合という条件付けを作成します。
まず、「WILCOMM」という文字列部分をサンプル・スプールファイルが表示されているエリアで、マウスによりドラッグして囲むように選択します。



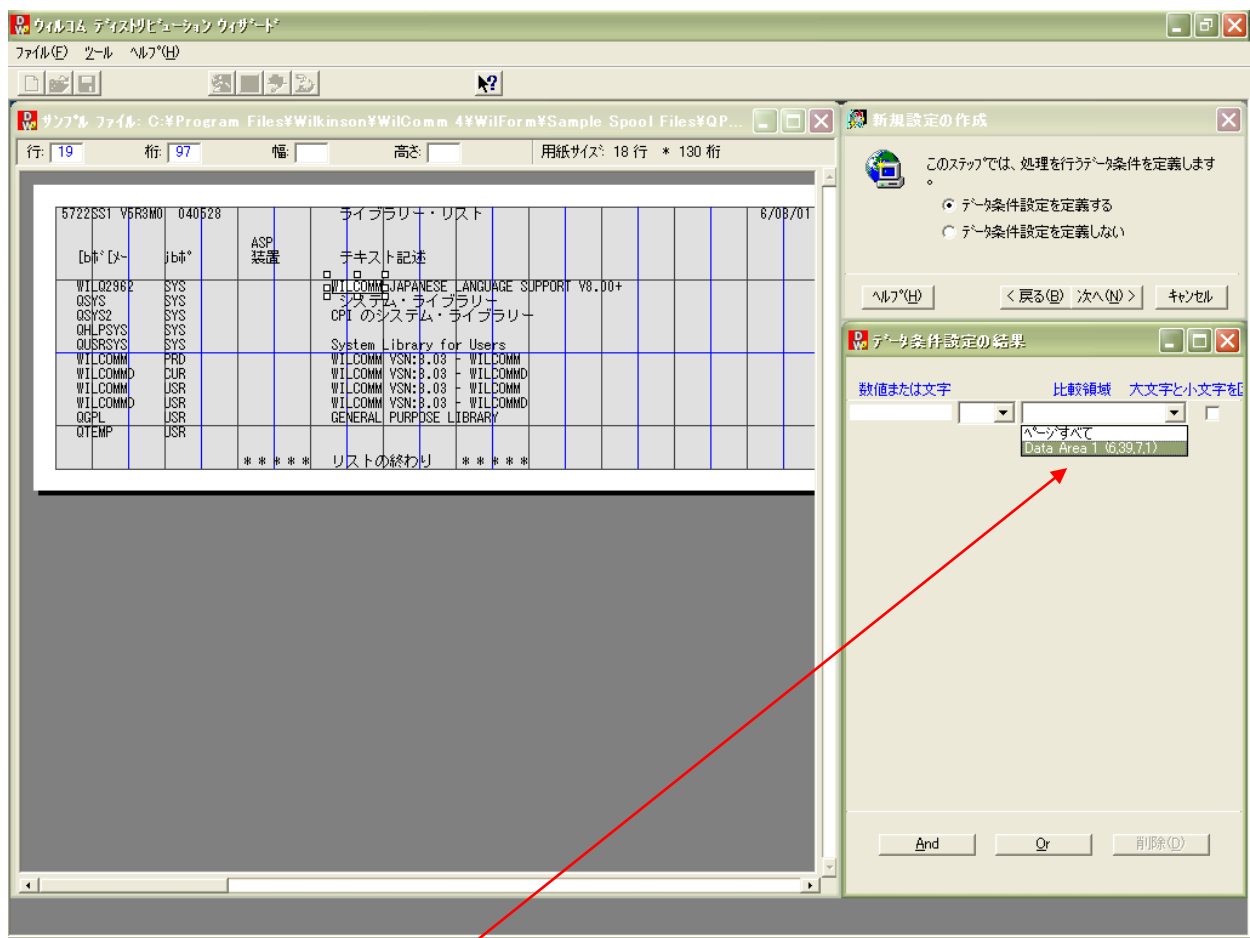
囲んだエリアの位置情報を示す「データ領域定義ダイアログ」が表示されます。
データ領域名「Data Area 1」の名称は適当な名称に変更可能です。
その他、「行・桁・幅・高さ」についても直接タイプして修正することが可能です。
ここでは、このまま「OK」ボタンを押します。

以下の状態になれば、どの位置の文字列を判断するの領域が登録されました。

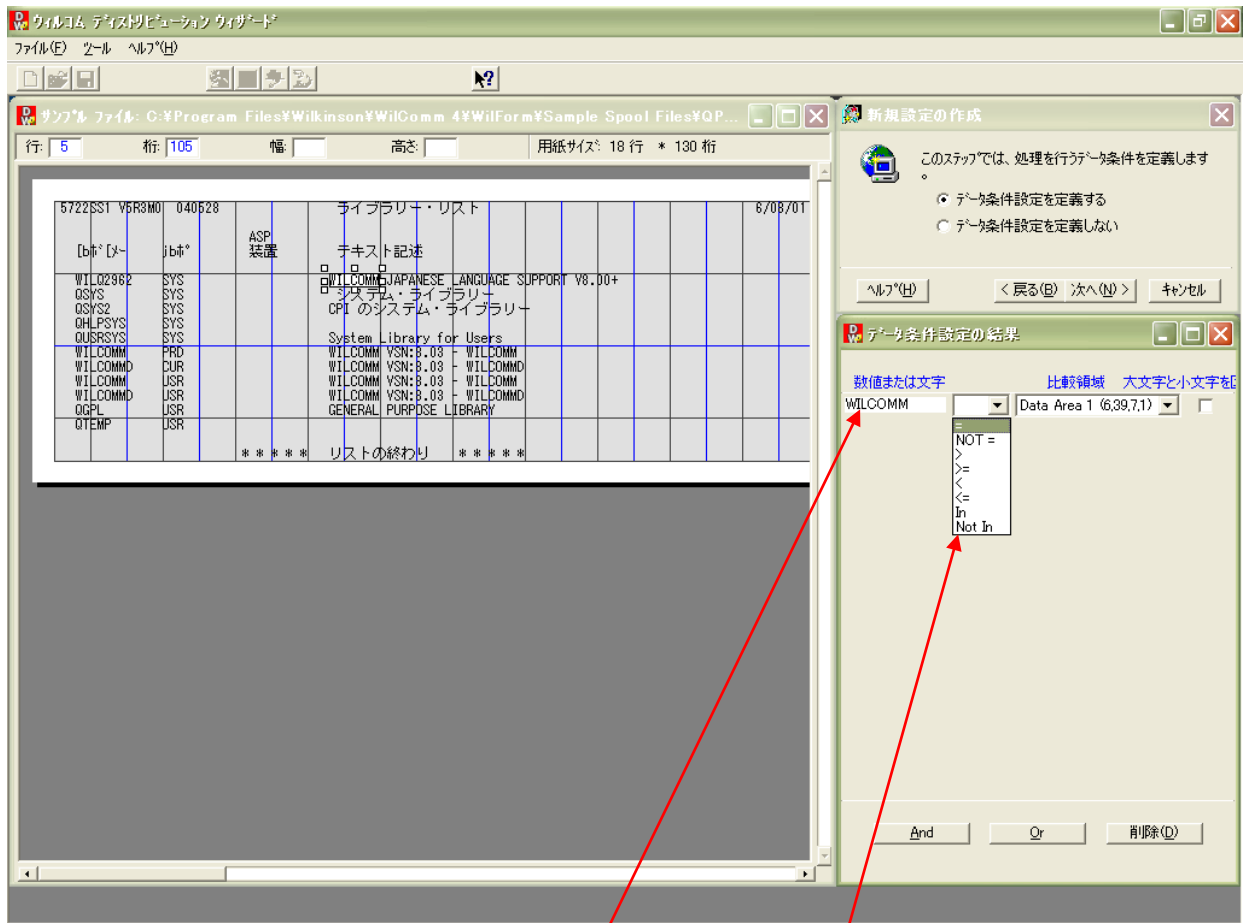
The screenshot shows a software window with a table and two configuration panels. The table contains data for various system components. The right-hand panels are for configuring data conditions. A red arrow points from the '比較領域' (Comparison Area) dropdown in the 'データ条件設定の結果' (Data Condition Setting Results) panel to the 'Data Area 1' field in the table.

行	桁	幅	高さ	用紙サイズ
6	39	7	1	18行 * 130桁
5722SS1	V6R3M0	040528		6/08/01
[b]* [M-	Jb]*		ASP 装置	
			テキスト記述	
			□ WILCOMM JAPANESE LANGUAGE SUPPORT V8.00+	
			□ システム・ライブラリ	
			□ CPT のシステム・ライブラリ	
			System Library for Users	
WILCOMM	PRD		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM	
WILCOMM	CUR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM	
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM	
WILCOMM	USR		WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM	
OGPL	USR		GENERAL PURPOSE LIBRARY	
QTEMP	USR			
			***** リストの終わり *****	

「Data Area 1」として登録した領域は、右側の「比較領域」に登録されています。



プルダウンメニューから「Data Area 1」を選択します。



「数値または文字」欄に比較したい文字列「WILCOMM」と入力し、比較記号をプルダウン・メニューから選択します。

これで、「6 行目の 39 桁目から 7 バイト」の値が「WILCOMM」というデータ条件が設定できたこととなります。

データ条件は複数指定することができます。右下の「And」「Or」ボタンを使用して、複数のデータ条件を連結することが可能です。

「次へ」ボタンを押します。

7. 次の画面で送信方法と送信する際のフォームを選択します。

①プリント出力の場合

「全般」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類 優先順位:

全般 | アドレス | フォーム

サービスプログラム:

ファイルフォーマット

フォームにマージ テキスト

二重印刷

シンプルックス 水平 垂直

コピー

番号: 部単位でコピー

プルダウン・メニューから「印刷」を選択します。

「アドレス」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類 優先順位:

全般 | **アドレス** | フォーム

プリンター名の決定方法を選択して下さい。

事前定義プリンター名:

ホストで指定されたアドレス

定位置アドレス

浮動アドレス

検索アドレス

「アドレス」タブを選択して、プリンターの決定方法を選択します。

(アドレスの決定方法)

事前定義プリンター：PC サーバー内にインストール済みプリンターがプルダウン・メニューから選択可能です。

ホストで指定されたアドレス

定位置アドレス

浮動アドレス

検索アドレス

【6.アドレスの決定方法】を参照

<<<注意>>>

プリンタ名は Windows へのドライバー・インストール時に半角英数文字で且つ、途中スペースのない文字で設定してください。

「フォーム」タブ

「フォーム名」「フィールドマップ名」をプルダウン・メニューから、選択します。

配信計画⑤の通り、ウィルコムが標準で提供します「フォーム名」=「STD132」、「フィールドマップ名」=「STD132」を選択します。

オリジナルのオーバーレイ・フォーム及びマッピング定義を作成しますと、それぞれ「フォーム名」、「フィールドマップ名」のプルダウン・メニューから選択できるようになります。

②メール送信の場合

「全般」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: Eメール 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / CSV

全般 | メールメッセージ | アドレス | CC_BCC | フォーム

Eメールの形式

- 送信ファイルをメール本文として送信
- 送信ファイルをテキストファイルの添付として送信
- 送信ファイルをウィルフォームズでマージして、PDFの添付ファイルとして送信
- ホストスクリプト ファイルをPDFに変換し、PDFの添付ファイルとして送信
- ページテキストとExcel テンプレートをマージしてExcelあるいはCSVファイルに出力
- 送信ファイルをウィルフォームズでマージして、XDMで添付ファイルとして送信

サービス プログラム: ウィルメール サービス プログラム

プルダウン・メニューから「Eメール」を選択します。

EXCEL or CSV 保管のためには、オプションツール「スプレッドシートビルダ」が別途必要です。

「メールメッセージ」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: Eメール 優先順位: 100

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / CSV

全般 | メールメッセージ | アドレス | CC_BCC | フォーム

件名: []

メッセージ: []

トランザクションの最初のページメッセージテキストが含まれます。

Add Variable

送信されるメールの件名及びメッセージを入力します。

「アドレス」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: Eメール 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / OSV

全般 | メール メッセージ | **アドレス** | CC_BCC | フォーム

宛先

ホストで指定されたアドレス 定位置アドレス 浮動アドレス 検索アドレス

送信者

名前: Default

メールボックス: Default

ドメイン: Default

Reply To: Default

送信先 E メールアドレスの決定方法を選択します。

(アドレスの決定方法)

- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- 検索アドレス

【6.アドレスの決定方法】を参照

「フォーム」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: 優先順位:

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / CSV

全般 | メールメッセージ | アドレス | CC_BCC | **フォーム**

フォーム名:

フィールドマップ名:

解像度:

添付ファイルフォーマット:

ページ区切りフィールド:

データのみ

「フォーム名」「フィールドマップ名」をプルダウン・メニューから、選択します。

配信計画⑤の通り、ウィルコムが標準で提供します「フォーム名」=「STD132」、「フィールドマップ名」=「STD132」を選択します。

オリジナルのオーバーレイ・フォーム及びマッピング定義を作成しますと、それぞれ「フォーム名」「フィールドマップ名」のプルダウン・メニューから選択できるようになります。

「PDF」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: 優先順位:

全般 | メール メッセージ | アドレス | CC_BCC | フォーム

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / CSV

フォント組み込みオプション

- ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を利用
- フォントを埋め込まない (システムフォントを利用)
- サブセットフォントを埋め込む。
- 全てのフォントを埋め込む。

日本語環境での使用の場合、「ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を使用」を選択してください。

「機密保護」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: 優先順位:

全般 | メール メッセージ | アドレス | CC_BCC | フォーム

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / CSV

パスワードを使わない

パスワードの設定(半角のみ有効です)

- 事前定義パスワード
- フォームの値を利用:
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- コンベネーションアドレス

作成する PDF ファイルにパスワードを設定するか否か指定します。

パスワード値をどのように決定するのかを指定します。

③FAX送信の場合

「全般」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: FAX 優先順位: 100

全般 | カバーページ | アドレス | フォーム | スケジュール

FAXの形式

フォームにマージして FAX

サービスプログラム: ウィルファックス サービス プログラム

プルダウン・メニューから「FAX」を選択します。

「カバーページ」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: FAX 優先順位: 100

全般 | **カバーページ** | アドレス | フォーム | スケジュール

カバーページ

件名: _____

メッセージ: _____

テンプレート: _____

カバーページを使用する場合は、
チェックしてください。件名と
固定文書を入力します。

Add Variable

「アドレス」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類 優先順位:

全般 | カバーページ | **アドレス** | フォーム | スケジュール

アドレスの決定方法を選択して下さい:

- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- 検索アドレス

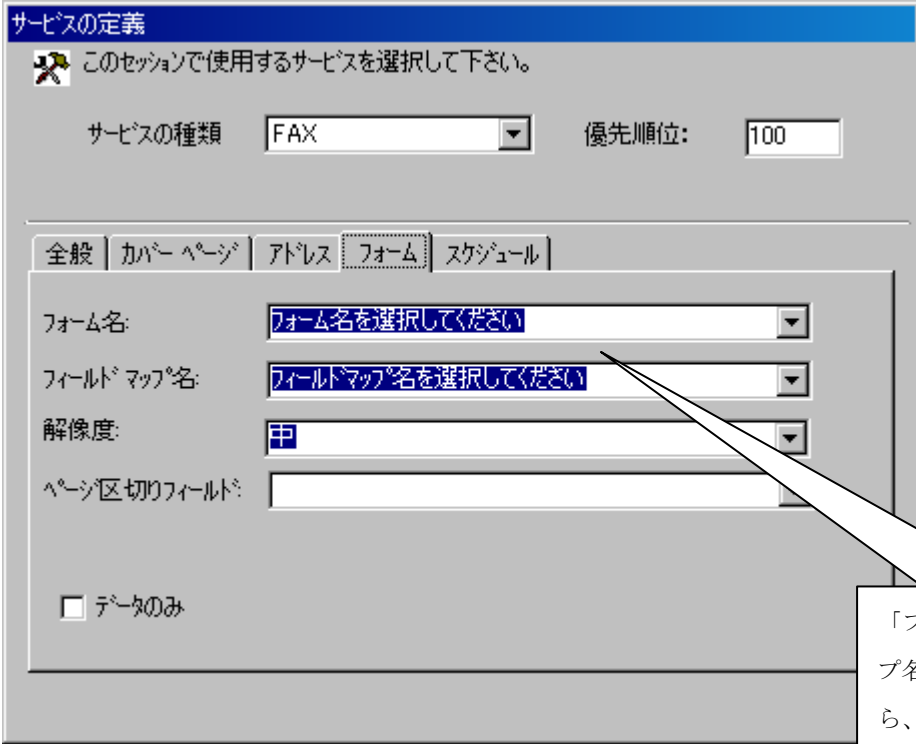
送信先 F A X 番号の決定方法を選択します。

(アドレスの決定方法)

- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- 検索アドレス

【6.アドレスの決定方法】を参照

「フォーム」タブ



サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: FAX 優先順位: 100

全般 | カバーページ | アドレス | **フォーム** | スケジュール

フォーム名: フォーム名を選択してください

フィールドマップ名: フィールドマップ名を選択してください

解像度: 中

ページ区切りフィールド:

テータのみ


「フォーム名」「フィールドマップ名」をプルダウン・メニューから、選択します。

配信計画⑤の通り、ウィルコムが標準で提供します「フォーム名」=「STD132」、「フィールドマップ名」=「STD132」を選択します。

オリジナルのオーバーレイ・フォーム及びマッピング定義を作成しますと、それぞれ「フォーム名」「フィールドマップ名」のプルダウン・メニューから選択できるようになります。

「スケジュール」タブ

サービスの定義

 このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類 優先順位:

全般 | カバー ページ | アドレス | フォーム | **スケジュール**

優先順位:

MESSAGEmanager の待ち行列
内で優先されるかどうかを指定
します。

④ファイル保管の場合

「全般」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: **ファイル** 優先順位: 100

全般 | フォルダー名 | ファイル名 | フォーム | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

サービスプログラム: ウルコムファイル サービス プログラム

ファイルフォーマット

- スプレッドシートデータをフォームにマージし、PDFファイルに変換して保管
- スプレッドシートデータをテキスト形式で保管
- ページテキストとExcel テンプレートをマージしてExcel または CSVファイルに出力

PDF ? Portable Document For...

プルダウン・メニューから「ファイル」を選択します。

保管ファイル形式を選択します。
EXCEL または CSV で保管するためには、
「スプレッドシートビルダー」というオプション
機能のライセンスが必要です。

プルダウン・メニューから PDF ファイル形式
/XDW ファイル形式/TIFF ファイル形式が
選択できます。
XDW 形式で保管するためには、Xerox 社の
DocuWorks が必要です。

「フォルダー名」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | **フォルダー名** | ファイル名 | フォーム | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

フォルダ名の決定方法を選択して下さい。

- 事前定義アドレス
- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- エンベネーション・アドレス
- Expression builder:
- 属性アドレス

ファイル保管先の決定方法を選択します。

(アドレス「フォルダー名」の決定方法)

事前定義定義アドレス : PC サーバー内保管先パスを明示的に指定します。

ホストで指定されたアドレス

定位置アドレス

浮動アドレス

【6.アドレスの決定方法】を参照

コンビネーション・アドレス

固定の文字列と、定位置アドレス、浮動アドレス、属性アドレスを組み合わせることができます。

固定の文字列＋定位置アドレス

固定の文字列＋浮動アドレス

固定の文字列＋属性アドレス

Expression builder

固定の文字列、定位置アドレス、浮動アドレス、属性アドレスを自由に組み合わせる事ができます。

属性アドレス

スプールファイル属性にセットされている値を使用して保管パスを決定できます。

スプールファイル属性に保管パスがセットされている必要があります。

ただし、スプールファイル属性は桁数の多いものでも10桁ですので、あまり現実的ではないかも知れません。

「ファイル名」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | フォルダ名 | **ファイル名** | フォーム | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

ファイル名の決定方法を選択して下さい:

- 既存のファイル名を使用
- 事前定義ファイル名:
- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- コンベネーション・アドレス
- Expression builder:
- 属性アドレス

保管するファイル名の決定方法を選択します。

「フォーム」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 100

全般 | フォルダ名 | ファイル名 | **フォーム** | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

フォーム名:

フィールドマップ名:

解像度:

ページ区切りフィールド:

データのみ

「フォーム名」「フィールドマップ名」をプルダウン・メニューから、選択します。

(「ファイル名」の決定方法)

既存のファイル名を使用:ウィルコムが自動的にファイル名を決定します。

S0000000~S99999999 の連番になります。

事前定義ファイル名:保管ファイル名を明示的に指定します。

ホストで指定されたアドレス

定位置アドレス

浮動アドレス

【6.アドレスの決定方法】を参照

コンビネーション・アドレス

固定の文字列と、定位置アドレス、浮動アドレス、属性アドレスを組み合わせることができます。

固定の文字列+定位置アドレス

固定の文字列+浮動アドレス

固定の文字列+属性アドレス

Expression builder

固定の文字列、定位置アドレス、浮動アドレス、属性アドレスを自由に組み合わせる事ができます。

属性アドレス

スプールファイル属性にセットされている値を使用して保管パスを決定できます。

スプールファイル属性に保管パスがセットされている必要があります。

ただし、スプールファイル属性は桁数の多いものでも10桁ですので、あまり現実的ではないかも知れません。

保管ファイル名には「.」(ドット)は使用する事はできません。

ウィルファイルにおける保管パスの決定方法は、マニュアル「ウィルファイル」を参照してください。

配信計画⑤の通り、ウィルコムが標準で提供します「フォーム名」=「STD132」、「フィールドマップ名」=「STD132」を選択します。

オリジナルのオーバーレイ・フォーム及びマッピング定義を作成しますと、それぞれ「フォーム名」「フィールドマップ名」のプルダウン・メニューから選択できるようになります。

「PDF」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 100

全般 | フォルダー名 | ファイル名 | フォーム | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

フォント組み込みオプション

- ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を利用
- フォントを埋め込まない (システムフォントを利用)
- サブセットフォントを埋め込む。
- 全てのフォントを埋め込む。

日本語環境での使用の場合、「ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を使用」を選択してください。

「機密保護」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 100

全般 | フォルダー名 | ファイル名 | フォーム | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

パスワードを使わない

パスワードの設定 (半角のみ有効です)

- 事前定義パスワード
- フォームの値を利用:
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- コレネーションアドレス
- 属性値を利用:

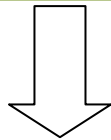
作成する PDF ファイルにパスワードを設定するか否か指定します。

パスワード値をどのように決定するのかを指定します。

8. 配信定義(セッション)のコードと名称を設定します。

登録するセッションの「コード」と「名称」を入力します。コードは、大文字の英数字8バイト以内です。

「コード」と「名称」入力後、「完了」をクリックして下さい。



新しいセッションが作成されました。

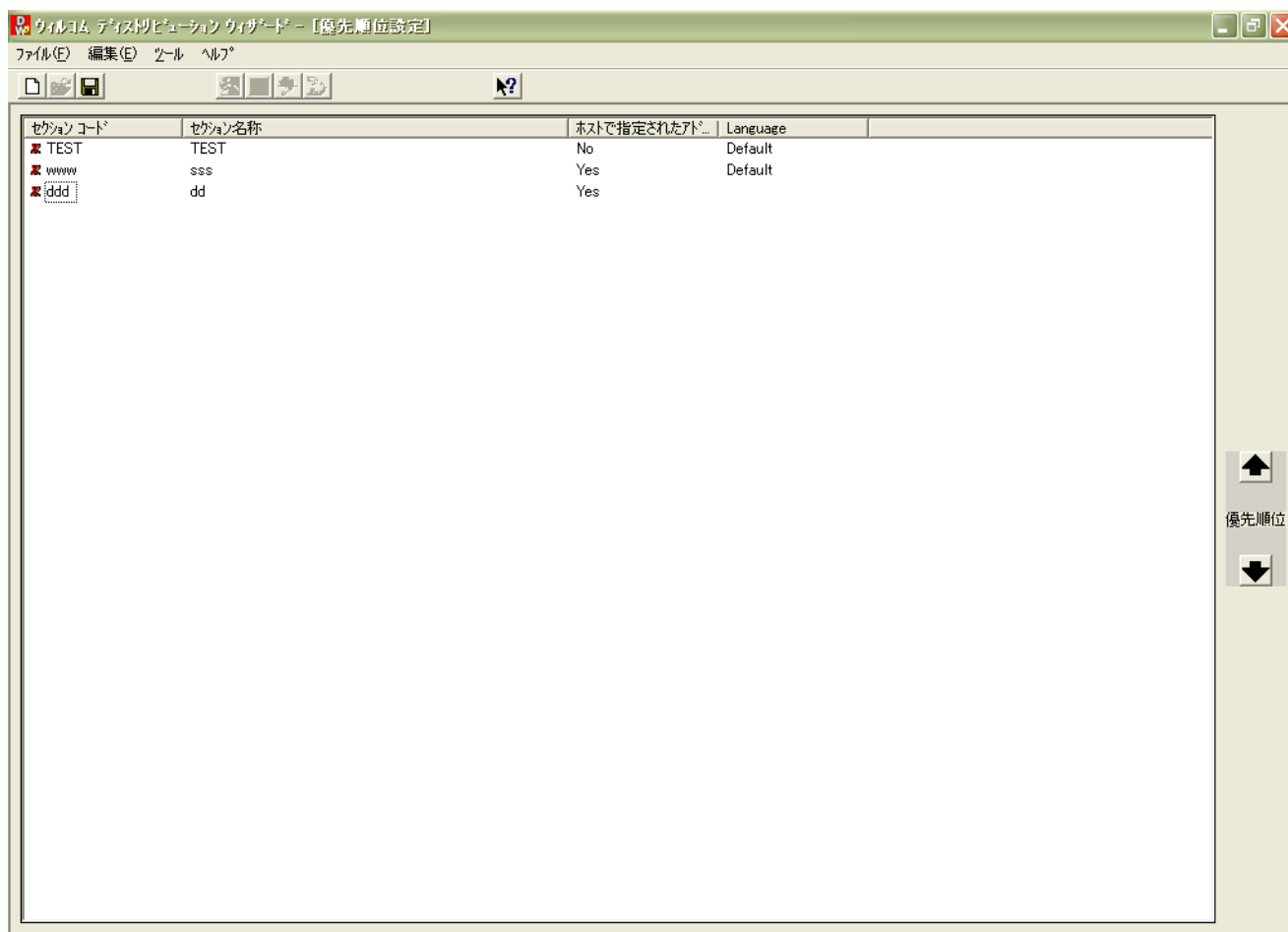
おめでとうございます！新しいセッションが作成されました。新しいセッションは、最低の優先順位となります。画面右側の矢印で優先順位を変更することができます。ディストリビューションウィザードを終了する前に、変更を保存することを忘れないで下さい。

OK


この画面が表示されたら、定義(セッション)の作成は、完了です。OK をクリックして下さい。


ここでは、コード＝「TEST」、名称＝「テスト配信定義」としましょう。

9. 定義済み一覧:「ファイル」→「開く」(定義(セクション)作成後にも表示されます)



ウィルコムは、スプールファイルを配信する際に、この定義済み一覧の“**上から順番**”にチェックを行い、最初に条件が一致したセクションを使用して配信します。通常は、それ以降のセクションはチェックせずに、ジョブを完了して次のスプールファイルの配信を行います。

表示されているセクションコードの左側  印は、そのセクションを処理した後‘**継続**’して次のセクションをチェックし、条件が整っていれば更に配信処理を行うことを示しています。

 印は各セクションを右クリックで「継続」を選択します。



一つのスプールファイルを使用した FAX とメールの同時配信は、FAX 用のセクションとメール用のセクションを作成して‘**継続**’設定することで実現できます。

セクション登録の件数が多くなると、優先順位と‘**継続**’設定が配信計画において重要になってきます。

優先順位を変更する場合は、該当するセクションコードをクリックしてから、画面の右に有る優先順位の上下の矢印をクリックする事によって変更出来ます。

(重要)

Distribution Wizard のセクション設定作業を行う場合は、ウィルコムの全モジュールを停止しておく必要があります。

以上で PC サーバー側の設定は完了です。

[6. アドレスの決定方法]

スプールファイルの配信先アドレス(FAX 番号 / プリンター名 / E-mail アドレス / パス名・ファイル名)を決定するには以下の方法があります。

種類	内容
ホストで指定されたアドレス	ホスト側で作成した「監視対象 OUTQ」に関連付けられた「サブスクライバー」でサービスコード“WD”以外を選択した場合に登録したアドレスを使用します。
定位置アドレス	スプールファイルに印字されている配信先アドレスの位置を指定します。スプールデータの決まった位置にアドレスが印字されていることを前提とします。何行目・何桁目から幅何桁をアドレスとして使用するかを指定します。
浮動アドレス	スプールファイルに印字されているアドレスが定位置でない場合に、任意のキーワードを使用してその位置を探し出します。(例)スプールデータ「Email : xxx@xxx.co.jp」のアドレス部分を「Email : 」というキーワードで探し出します。
検索アドレス	スプールファイルに印字されているキーワードの位置を取得し、PC サーバーに事前用意したウィルコムのアドレス帳を検索します。(例)アドレス帳には取引先コードをキーにした配信先アドレスを登録しておき、スプールデータ内の取引先コードからアドレスを検索します。

・定位置アドレス

スプールデータの決まった位置に配信先アドレスが印字されている場合に使用します。

1. “アドレス”タブの「定位置アドレス」を選択します。

①「定位置アドレス」にチェックします。

②「詳細」をクリックします。

③アドレスが印字されている帳票の行数とアドレスの左からの開始桁数及び、アドレスの幅（桁数）を入力します。

④スプールファイル全てを同じアドレスへ配信する場合にチェックします。

⑤入力完了後、OK をクリック。

ウィルコムの配信先アドレスの決定方法は、定位置アドレスの使用が、最も一般的です。

浮動アドレス

スプールデータに配信先アドレスが印字されていても、位置が一定でない場合に使用します。

但し、スプールデータ内のアドレスが、アドレス・データであることを識別できる情報が必要になってきます。「定位置アドレス」を使用する場合は、位置が決まっていますからアドレスのみが印字されていれば配信先アドレスを読み取ることが可能です。

しかし、位置が一定でない場合はそのデータがアドレス・データであることを何らかの方法で識別できなくてはなりません。

そこでこのような場合は、以下のようにアドレスを識別できるような情報とともにアドレスを印字するようにアプリケーション・プログラムを改訂する必要があるかも知れません。

FAX の場合:「FAX : 999-9999-9999」

メールの場合:「EMAIL : xxx@xxxxxxx.co.jp」

スプールデータには以上のように印字するようにしておきます。「FAX : 」や「EMAIL : 」のような文字列を検索できれば、それに続くスプールデータ部分がアドレスということになります。

1. “アドレス”タブの「浮動アドレス」を選択します。

The image shows a screenshot of a software interface with several callout boxes explaining the steps to configure the 'Floating Address' feature. The interface includes a 'Service Selection' window and a 'Floating Address' dialog box.

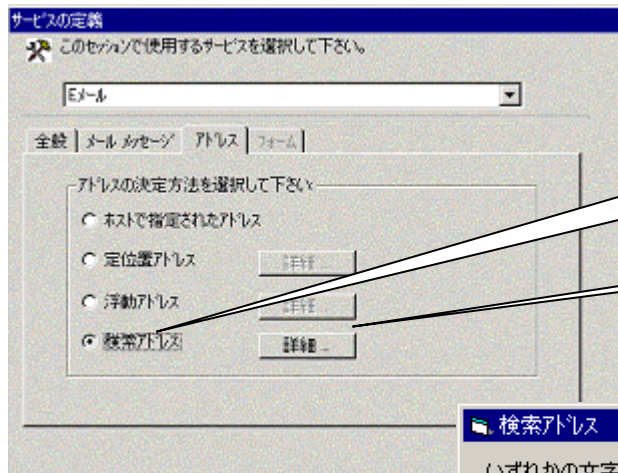
- ① 「浮動アドレス」にチェックします。
- ② 「詳細」をクリックします。
- ③ スプールデータ内に印字されているアドレスを検索するための文字列を入力します。例えば、メールアドレスの場合にアドレスの前部にある“EMAIL :”という文字列を検索させたい場合、“EMAIL :”と入力します。
- ④ 実アドレス部分が、検索した文字列から見て、開始位置が水平方向で左右何桁目かを指定します。
- ⑤ 実アドレス部分が、検索した文字列から見て、開始位置が垂直方向で上下何行目かを指定します。同一行である場合は「0」です。
- ⑥ アドレス部の最高何桁数
- ⑦ スプールデータ全てが同じアドレスへの送信の場合は、ここにチェックを付けます。
- ⑧ 入力完了後、OK をクリック。

検索アドレス

スプールデータにアドレスが印字されていない代わりに、取引先コードのようなキーワード(英数字)が印字されているかスプール属性にセットされている場合に使用します。

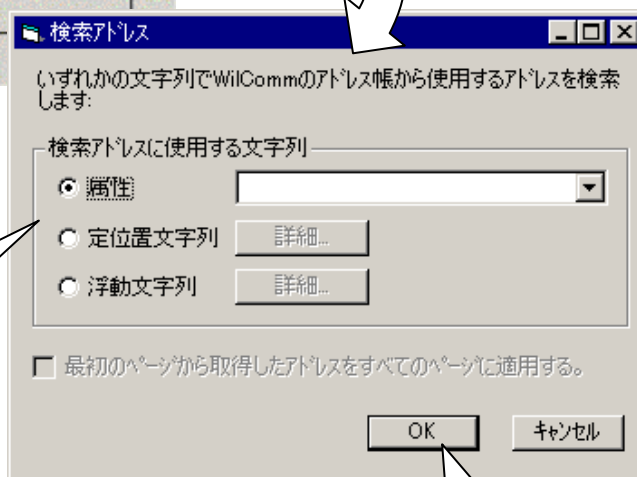
1.

“アドレス”タブの「検索アドレス」を選択します。



① 「浮動アドレス」にチェックします。

② 「詳細」をクリックします。



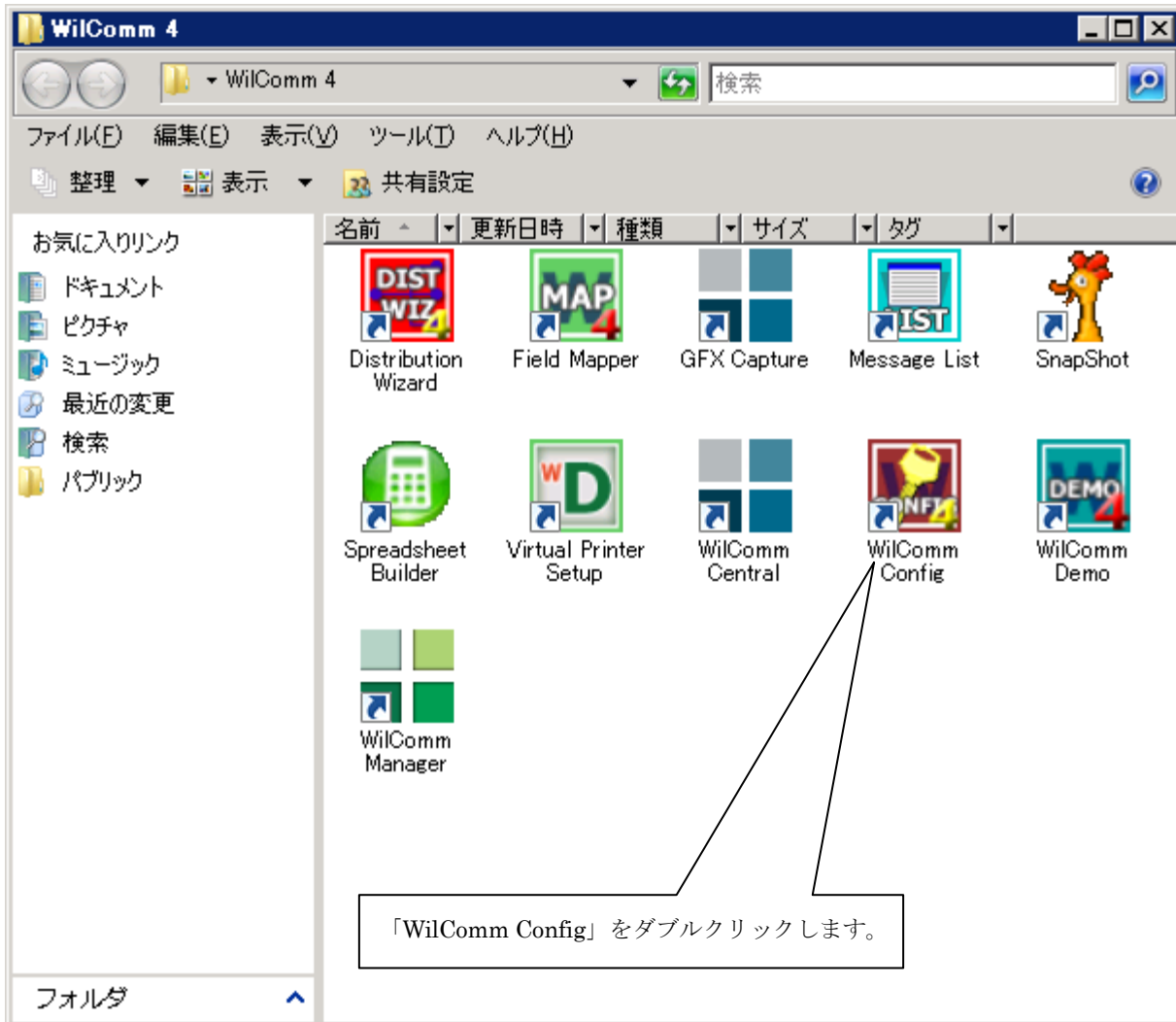
- ③ 「検索アドレス」には図の様に3種類のキーワードの指定方法があります。
- 「属性」 プルダウン・メニューからキーワードがセットされている属性項目を選択します。
 - 「定位置文字列」 「定位置アドレス」の設定と同要領でキーワードの印字位置を指定します。
 - 「浮動文字列」 「浮動アドレス」の設定と同要領でキーワードの印字位置を指定します。

④ 入力完了後、OK をクリック。

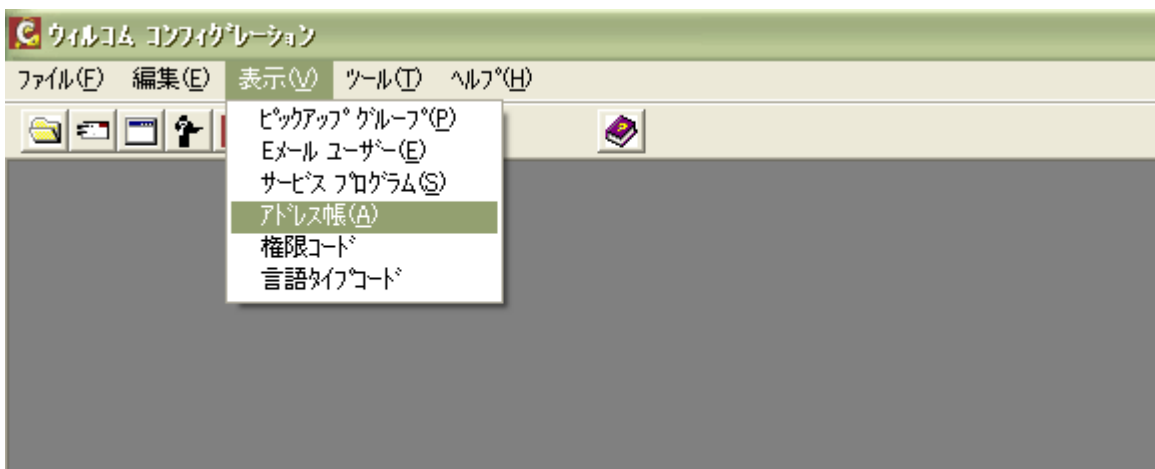
アドレス帳の登録・修正方法

「検索アドレス」を使用する場合、以下の手順でアドレス帳を作成しておく必要があります。

デスクトップ上の「Wilcomm 4」フォルダ内の「WilComm Config」を起動します。



ツールバー「表示」→「アドレス帳」を選択



次の画面が表示されます。

①「新規作成」のアイコンをクリックします。

②必要な項目を入力して下さい。
尚、顧客コードに入力した値がアドレス決定時のキーワードになり

③入力後、OKをクリック。

既に登録されている場合は、一覧表示されますので、修正を行う場合、対象となる項目をダブルクリックして下さい。

顧客コード	FAX番号	Eメール アドレス	プリンター名	テレックス番号	電話番号	会社	住所
ABC	9819 4160	@wik.inso...					
ACE MANUFACTURL	9819 4160	@wik.inso...					
Northern Office	9819 4160						

新しいアドレスが追加されました

顧客コード: 姓:
FAX番号: 名:
Eメール アドレス: 会社:
プリンター名: 住所:
テレックス番号: 市区町村:
電話番号: 都道府県:
コメント アドレス: 〒:
国:

OK キャンセル

注意: アドレス帳へ登録する場合、FAX 番号・E メールアドレス・プリンター名のうち最低でも1つは送信先のアドレスを指定して下さい。以外の項目はメモ程度ですので入力必須ではありません。